

国際交流員

ヨークさんの



女性が輝ける世界? MORIYA 滞在記

去年の9月に安倍首相は国連総会で日本が「女性が輝く社会」を目指すことを表明しました。その目標は素晴らしいと思いますが、私の日本滞在経験からすると、「まだまだ」と感じます。今回は男女共同参画についてのお話です。

日本は男女共同参画社会?

若い女性の友人が年功序列を理由に昇進できなかったという話を聞いたり、男女共同参画と子育て支援を推進する女性政治家が、子どもがいなかったり、独身ということで批判されたという記事を読んだりして、日本の男女共同参画への道はまだ遠いな、と感じています。

ドイツ人の友人に「子ども

もは好きではなく、絶対結婚しない」と言っている人がいます。彼女の主張に、

多くの日本人は説得を試みるそうです。友人の考え方への賛否は別として、日本の社会は、なぜ独身の人に「結婚すべき」、そして「子どもを生むべき」というプレッシャーをかけたり、個人的な選択を尊重してくれないのでしょうか?

男性の皆さん、「主夫」していますか?

経済協力開発機構の調査によると、その加盟国26か国の中で家事・育児をする男性について日本は下から数えて2位だそうです。日本人男性は一日62分しか家事・育児をしません。日本人女性は約5時間で26か国中6番目の長さです。最も家事を行う男性はデンマークで、186分です(ちなみに、ドイツは164分で上から5位です)。

日本の男性は通勤時間が最も長く、朝早くから夜遅くまで働き、仕事後も飲みに行かなければならない人もいます。そのような生活の中では、家事・育児時間

を確保することは難しいのではないのでしょうか?

私のドイツ人の友人は、子どもが2人います。最初の6か月間、母親が一人で子どもの面倒を見て、その後2か月間、父親も一緒に育児休業を取りました。1年間の育児休業取得後に子どもを保育園に預け、今は共働きです。日本の社会も少しずつ変わってくると思いますが、このような話は日本であまり聞きません。

日本企業の調査によると、日本の女性の考え方にも問題があるということでした。日本は少子高齢化社会で、女性が労働力になることが必要ですが、「家族ができたら退職」という意見はいまだに多いです。労働・育児の状況を改善し、性別による固定観念を改める時代にきていると思います。

昨年の青少年海外派遣で、1人の女の子が「将来は宇宙飛行士になりたい」と将来の夢を語りました。多くの女性が夢を叶えられる社会を、みんなで一緒に作っていきましょう。女性が輝ける世界を目指して…。

男女共同参画コラム

(男女共同参画推進ネットワーク)

団塊世代の男女共同参画

男女共同参画への意識は、世代によってかなりの違いを感じるがあります。

戦前生まれの親に育てられた、いわゆる「団塊の世代」が退職し、ボランティア活動に取り組み始めています。職場や地域で、男女共同参画に関わってきた人でも、家庭内で共同参画している人はどのくらいいるのでしょうか?

さて、先日、大野小学校の「放課後児童クラブ・子ども教室」で子どもたち向けの「男女共同参画」出前講座を行いました。

子どもたちに、男女共同について興味を持ってもらい、理解してもらうために、テーマは身近な家庭の中の仕事「家事」にしました。

まずは、子どもたちに洗濯物(タオル)を使って、「干す」「たたむ」をゲーム形式にして、競技を行ってもらいました。家事は男女どちらでもできる、ということを理解してもらったことができたと思います。

その後取ったアンケート

結果は、食事、洗濯、掃除などは90%が「お母さん・おばあちゃん」でした。項目全体でも「お父さん・おじいちゃん」が50%を超えたものはありませんでした。この結果は1月17日(土)開催の「ぱーとなーしっぷフォーラム Andante 2015」でも「や」で掲示します(詳しくは市ホームページをご覧ください)。

この子どもたちの親の多くは、団塊世代が育てた子どもです。団塊世代の皆さん、会社人間だったころの考え方、価値観はほとんど役に立たないことを理解して、地域で、家庭で、「男女共同参画」にチャレンジしてみてください。



○このコラムに関する意見・感想は左記までメールをお寄せください。

✉ kyoudou@city.moriya.

ibaraki.jp